

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年7月3日発行 No.42

『上から出た知恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。』
(ヤコブの手紙 3:17~18)

<今年も「チャペル講座」を開催!! 500年前に世界を変えた改革の発端に耳と心を傾ける!!>

先週末、7月1日はKIUで七夕祭が行われました!! 週末が近付くにつれて急に梅雨前線が活発になり西日本一帯は激しい雨に見舞われました。お祭りそのものの開催も心配されていましたが、学生・関係者の祈りが通じたのか、当日は朝まで降っていた雨が上がり、最高のお祭り日和!! キリスト教センターでもこの日に「チャペル講座」を開催!! 多くの参加者を迎える事ができました!! 特筆すべきは、この日にお迎えした同志社大学の名誉教授、宮庄哲夫先生の講演です!! 1517年にドイツで始まった宗教改革、今年は実に500周年を迎えています。その改革がキリスト教だけに留まらず後の世界にも大きな影響を与えた事は周知の事実ですが、今回はその原点と言われる「95箇条の提題」について、写真やユーモアを交えながら1時間、濃密な学びの時間を共有する事ができました。個人的に非常に驚いたのが、一般的にキリスト教会に対する一方的な批判と考えられているルターの掲示した提題(プロテスタント=「反対者」の誕生ともリンクして…)実はそうではなく、これは討論会を開催し様々な問題について幅広く議論を呼び掛ける掲示であったことが、まさに目からウロコでした。私たちが集う社会やこの世界も、様々な問題を抱えています、その解決のカギを握るのは、やはり相手とのコミュニケーションではないでしょうか? その点において、KIUが担っている可能性は非常に大きい…。改めて自らの使命を見直す事のできた有意義な講演でした!! またその後は、我らがチャペルオルガニスト伊藤純子先生のミニコンサートも行われ、充実した時を過ごしました!!



朝までの雨が嘘のように上がった!!



多くのブースがキャンパス内に展開



休日でも大勢の出席者が!! 感謝!!



同志社名誉教授の宮庄先生の講演



興味深い内容に聞き入る参加者



伊藤先生の演奏に会場もウットリ

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

6月26日(月) テーマ:「ふるさと その2」 後藤 誠(リハビリテーション学部)

私の出身地である熊本では、地震発生から約1年2ヶ月が経ち、家はやっと元通りになり復興も進んできた。しかし現時点で4万人以上が仮設住宅で暮らす。改めて自然に対する私たちの無力さ思う。私たちは「人間社会」と「自然」という大きな世界の中で「自分の生命の意味を問う存在者」だ。哲学的だが、自分はどこから来てどこに向かうのか?自分は誰なのか?等を死ぬまで問い続け、その探求を通して「生きる事の責任の重さ」を意識する。その中心が「ふるさと」だ。「命の源」であり「帰るべき所」、そして心の根底にあって「生きる力」を与える「ふるさと」の存在を大切にしたい。

6月27日(火) テーマ:「エンゲージ(絆)」 山本 ひとみ(経済学部)

Engage(エンゲージ)とは本来婚約という意味だが、私は「絆」という意味で使っている。SNS等が発達した現代において、人との繋がり方は多様化し、エンゲージという言葉も「共通の連帯意識」という意味を含むようになった。先日私事から、改めて「エンゲージ」という言葉の意味を実感した。長年抱えていた指の変形性関節症という病気から、抜けなくなった結婚指輪を遂に外す事になった。とても残念であったが、しかしこれが長年連れ添っている夫婦の間の亀裂になる訳でもなく、今まで通り仲良く過ごせている。改めて感じるのが、「エンゲージ」とは物ではなく、人の心に刻み込む事なのだ。皆さんも、大切な存在と目には見えない「心のエンゲージ」を大切に作り上げて欲しい。

6月28日(水) テーマ:「綺麗な貝には毒がある」 平田 憲司郎(経済学部)

あと約一カ月で夏休み。色々な計画を持つ人も多い事だろうが、一つおススメをしたい。私は趣味でよく海に行くが、海で本当に怖いのは大型のサメなどではなく、むしろ小さい生き物だ。芋貝と呼ばれる毒を持つ貝が、水温の上昇と共に北上している。しかも見た目が美しいので、毒があることを知らずに触ってしまう。この話をしている私も実は2カ月ぐらい前に刺されて、傷になっている。触りたくなるような美しいものほど毒が強い。命はゲームのようにリセットすることができず、起こしてしまった大きな事故はやり直す事が出来ない。大切な命を有意義に輝かせるような夏を迎えたい。

6月29日(木) テーマ:「日本の社会保障」 小枝 英輝(リハビリテーション学部)

「社会保障」を考えたい。戦後の日本では憲法25条に社会保障の基本理念として「人が生活を営む中で病気、老齢、障害、死亡、失業、貧困、要介護、出産、育児等に直面した時に、国や公共団体がサービスや現金を給付し、その生活の安定を図る」制度が示されている。1960年代に国民皆保険・皆年金の制度が確立し、貧富の格差が広がるのを抑えると共に、老後の不安を解消する事で消費を促し、より豊かな生活を求める余裕を作り出したと言われている。しかし現実はどうか?2014年度の社会保障費用は約112兆円。半分が年金、3割が医療、1割が介護に使われている。平均寿命が延び、高齢者が増えると医療や社会保障にかかる費用も上がる。様々な課題が叫ばれる中で、神戸国際大学に集う私たちは、時代の変化への対応と合わせて、相手の命へと仕える姿勢が求められていると思う。

6月30日(金) テーマ:「命こそ宝(ぬちどったから)」 野間 光顕(チャプレン)

72年前の沖縄戦で亡くなった人の事を覚え喪に服す「慰霊の日」を学びに沖縄へ行った。沖縄独特の「亀甲墓」や、戦没者記念式典が行われた平和記念公園「平和の礎」の前で家族が集って慰霊の祈りを奉げておられた。いつもは爆音と共に飛び交う米軍機も、この日だけはその姿が見えず、沖縄全体が静かに命に向き合っている…そんな印象を持ちつつ、ある聖句を想起した。「…彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」多くの戦乱に翻弄されたイスラエルが、民族の基本に据えた「平和」。相手と自分の命を大切な宝(命こそ宝)と考え、行動するためにも、沖縄に目と心をしっかり向けていきたいと願う。(文責:野間 光顕)